

NO! リニア

No. 4 5

2011年6月1日

J R 東海労働組合

リニア反対プロジェクト

国交相がJR東海にリニア建設を指示! マスコミも安全性に疑問を示す!

5月27日、マスコミ各社は大畠章宏国土交通相がJR東海に対して、リニア中央新幹線の建設を指示したと報じました。

これは、5月12日に国交省交通政策審議会がリニア中央新幹線の建設に向けた最終答申を国交相へ行ったことをうけてJR東海に指示したのですが、審議会ではリニア中央新幹線建設のリスクが十分に議論されてきたのでしょうか？

5月30日の東京新聞では、「長大トンネルを超高速で走るだけに耐震性と地震対応が気掛かりだ。十分な説明が聞きたい。」と、リニアの耐震性や災害時の対応について疑問を訴えています。

審議会では、東日本大震災をうけてこの点を議論しましたが、JR東海からの「地震に対しては新幹線と同様に緊急停止する」「車両を誘導する側壁があるため脱線しない」などの説明のもとに、たった1日の議論しか行わず、この説明を追認する形で最終答申しているのです。

不幸にも5月27日にJR北海道・石勝線で発生した車両脱線・火災事故では、乗客の避難誘導體制が問題視されていますが、運転士のいないリニアが長大トンネルで火災を起こした場合の、具体的な避難誘導體制は最終答申で明らかにされていません。

同紙では、「審議会も震災で東北新幹線に深刻な被害がなかったことで、リニアの安全性にお墨付きを与えた。東海地震に備え、代替路線として早期実現が必要」としたことを「国と企業で作られた安全神話」に聞こえるとしています。

私たちは、こうした国とJR東海の姿勢は、「絶対に安全」とされてきた原発が爆発し深厚な事態に陥ってしまったことと全く同じだと考えます。

安全を守ることに「想定外」があってはならないのです。リスクを十分に議論していないリニア中央新幹線建設は白紙に戻し、審議をやり直すべきです。

**最終答申は企業と国で作られた「安全神話」!
安全に謙虚に向かわないリニアと原発の関係は無縁ではない!**